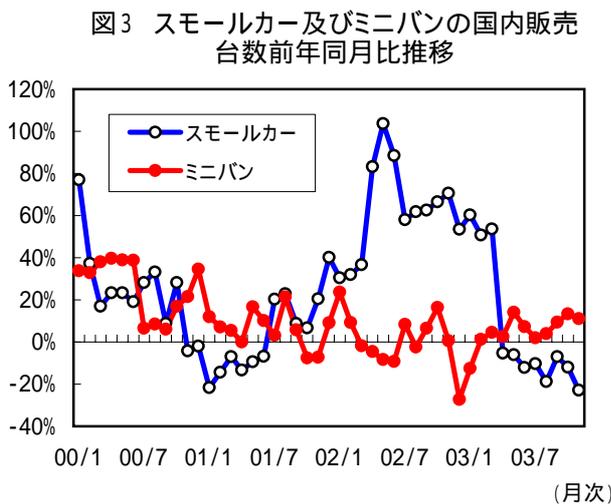
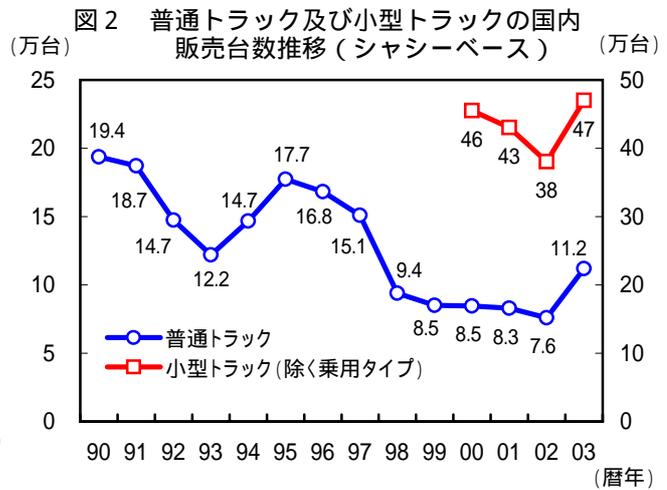
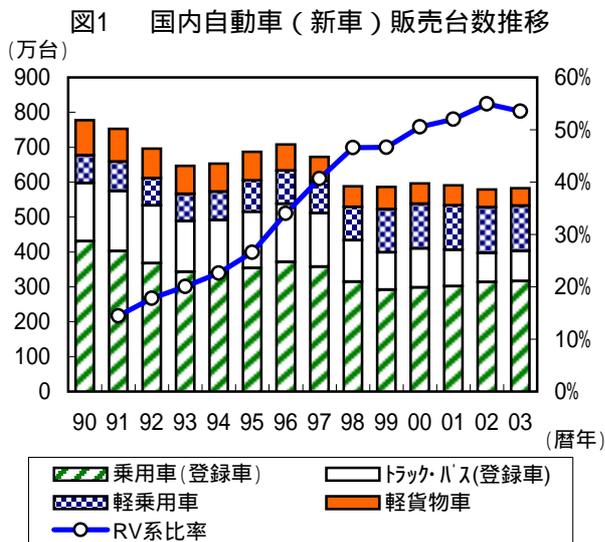




2003年の国内新車販売台数

- 2003年の国内新車販売台数は583万台（前年比0.6%増）と 小幅ながら3年ぶりの増加となった。水準としてはピーク時（90年778万台）の3/4と過去6年間600万台割れが続いた状態となっている。また、近年はRV（レクリエーションビークル）系の販売台数のウェイトが高くなっている。
- 583万台の内訳を見ると、登録車が403万台（前年比1.5%増）とプラスながら低水準、軽自動車は180万台（同1.4%減）とマイナスながら高水準を維持した。車種、用途別に更にブレークダウンしていくと以下の点が2003年の特徴として指摘できる。
 - 普通トラックが首都圏排ガス規制導入等に伴う特需により6年ぶりの10万台越えとなった。
 - スモールカー（1,300ccクラスの小型車）ブームは一巡し、春以降、販売台数は前年割れに転じた。
 - ミニバンは新型車効果もあり春以降、順調に販売台数を伸ばしている。
 - 乗用車では低価格モデルのウェイトが上昇した結果、各社の収益に与える影響も強まっている。
- 2004年は、日本自動車工業会の予測では590万台と微増の見通し。乗用車では、ミニバンが市場の牽引役として期待され、また、セダン系が各社の新型車投入をテコに息を吹き返すかも注目される。



- （備考）
1. 自販連（社）日本自動車販売協会連合会）及び（社）全国軽自動車協会連合会発表資料により作成。
 2. RV（レクリエーションビークル）系比率は自販連ベースのRV系販売台数÷登録車台数によって求めた。自販連ベースのRV系販売台数にはステーションワゴンやオフロード4WDのほか、ミニバンや小型のセミキャブワゴンも含まれている。
 3. 小型トラック（除く乗用タイプ）にはガソリン車の商用バンも含まれている。
 4. スモールカー、コンパクトカー、ミニバンの正確な定義はなく、ここではスモールカーを1,300ccクラスの小型車、コンパクトカーを1,500cc～2,000ccのセダン系小型車（5ナンバーのものに限る）、ミニバンを1,500cc超の3列シート車と定義して独自に集計した。

【調査部(産業・環境調査担当) 増田 真男】

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp